



## 菜園のミツバチ

遅ればせながら、緊急事態宣言が発出されました。皆さんも、不自由な生活や仕事を強いられておられることと思います。筆者は、3月に視察予定だった石垣島の共同売店（素朴な生活協同組合）見学をキャンセルして以来、自粛体制に入っています。その結果、外に出歩かないで、「人事も歩けば」をかざるを得ません。やむを得ず、より身近な場所をよく観察することになります。今月は、ミツバチのことを観察し、人事について考えてみました。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」



家庭菜園は、花の盛りを迎えています。ブロッコリーは菜の花のような花をつけます。イチゴには白い花が鈴生りに、ヒヤシンスの紫、桃のピンク、ガーベラの赤などが混じり、結構楽しめます。草を抜きながら、

春の日射しを浴び、花を眺めています。先日、草抜きをしていると、目の前にミツバチがいました。イチゴを蜜源にするようです。蜜集めに夢中で、近寄っても逃げません。少しの時間ミツバチを観察しました。

ミツバチは、採蜜時、ずっとホバリングをしています。大きめのお尻をこちらに向けたミツバチの姿は、中年太りした蚊のようです。ストロー状の口(?)を花びらの基部に突っ込み、花粉や蜜を集めるようです。ひとつの花で何か所も場所を変えます。

ミツバチは、ダンスで他の蜂に蜜源を知らせることがわかっています。お尻を振りながら8の字を描いて飛ぶダンス。8の字を描くとき、直線の方向が太陽との角度を、尻を振る速度は蜜源までの距離を示すそうです。

ミツバチが蜜を巣に持ち帰ると、貯蔵系の蜂がいます。糖度の高い蜜を持ち帰った



▲採蜜担当のハナバチ。生産性は高い？ 低い？

ものから順に受け取るそうです。つまり、働き者のミツバチは、待ち時間なく次の作業にかかれますが、生産性が低い蜂は順番待ち。生産性が高い蜂をフルに働かせることによって、ミツバチの群れは収穫する蜜の総量を増やしています。

このように、ミツバチ社会には、競争と協調の仕組みが存在しているようです。貯蔵系の蜂は、できる蜂と無能な蜂を選別します。評価者です。いっぽう、蜜集めをする蜂はダンスで蜜源をお互いに教え合います。能力主義人事による選別と小集団活動の組み合わせと似たメカニズムです。ミツバチを見ながら、高度経済成長時の日本企業の人事を思い出しました。

(MBO 実践支援センター代表)